

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p>8. 教育研究等環境</p> <p>【計画44-1】（総務人事部） ポストコロナに向け、各学部・研究科等における教育研究組織の整備・充実に配慮した適切な施設・設備について、計画的な整備を図るとともに、教育研究等の環境整備について、その適切性について点検・評価、検証を行い、その結果を改善に反映させる。</p> <p>【計画達成のための方策】 「環境整備に関する実施計画」に基づき計画的な整備を図るとともに、「学生の学修・研究及び生活実態調査」結果などを踏まえて、その適切性について点検・評価、検証を行う。</p> <p>【評価指標】 ・「環境整備に関する実施計画」に基づく施設・設備の整備状況及び点検・評価、検証の状況</p> <p>【計画44-2】（総務人事部） ポストコロナに向け、「環境整備に関する実施計画」に基づき、教育研究等を支援する環境等の整備・充実を図る。</p> <p>【計画達成のための方策】 1. 各キャンパス校舎においてはバリアフリーに配慮した施設・設備の改修を推進する。 2. 各キャンパスの施設・設備の維持管理は、法令に基づき適切に行うとともに施設・設備の老朽化対策に対応した適切な整備を図る。 3. 各学部・研究科等の実験・実習に当たっては、安全面での注意を徹底するとともに、実験・実習室及び設備の管理・責任体制の徹底を図る。 4. 学生の主体的な学習支援のための体制や開放的な空間（ラーニング・commons）の整備に努める。</p> <p>【評価指標】 ・「環境整備に関する実施計画」に基づく施設・設備等の整備状況</p>	III	<p>・令和4年度整備計画を作成し、計画的な整備を推進し、計画10件中7件を完了した。2件は予算獲得や設計変更等の状況から次年度に繰越し、1件は今後のDX事業と整合を図るため再検討することとした。適正な計画作成と適宜の計画見直しが出来た。</p>	III	<p>1. 校舎のバリアフリー化を推進し、R4年度五反田本館バリアフリー化工事の増築確認申請は完了、予算確保の観点からR5年度へ繰越した。 2. 各キャンパスの施設・設備の維持管理は調査・検査結果に基づき適正に計画・実施できた。世田谷本館アリーナのガラスブロック壁面工事、国立病院機構キャンパス本館研究棟外壁防水工事及び世田谷本館アリーナの屋根防水補修工事は完了し、立川体育館用音響設備老朽化による更新と照明交換も完了し老朽化対策を適切実施した。なお、雄湊キャンパス本館事務室拡張工事（要増築申請）は、学生対応の向上を図るため設計変更が必要となり増築申請を次年度に繰越したため工事もR5年度へ繰越した。 3. 世田谷キャンパス調理実習設備老朽化による視聴覚設備更新、船橋キャンパス本館の設備用中央監視装置の更新により設備の管理・責任体制の徹底を図り安全面の管理が向上した。 4. 全キャンパス間遠隔画像・音声配信設備は、DX事業との整合を図り、学生の主体的な学習支援のための体制や開放的な空間（ラーニング・commons）の効率的な整備のため見直し検討することとした。</p>	IV	<p>R5年度は文科省補助金活用のバリアフリー化を含むR4年度繰越2件を完了した。また、視聴覚設備や受電設備・エレベーターリニューアル等、学修・研究及び生活環境の改善を図った。</p>			
			<p>【年度計画44-1】 「環境整備に関する実施計画」に基づき計画的な整備を図るとともに、「学生の学修・研究及び生活実態調査」結果などを踏まえて、その適切性について点検・評価、検証を行う。</p> <p>【評価指標】 ・「環境整備に関する実施計画」に基づく施設・設備の整備状況及び点検・評価、検証の状況</p>	IV	<p>1. 五反田本館バリアフリー化は文科省補助金を活用し完了した。R6年度は雄湊キャンパス体育館トイレのバリアフリー化を計画する。各キャンパスのバリアフリー化に配慮した施設・設備の改修を推進する。 2. 法令対応の五反田受電設備の更新、東が丘研究棟エレベーターリニューアルを完了した。東が丘消防設備及び船橋エレベーターリニューアルは契約完了し工事はR6年度に継続実施です。引き続き、施設・設備の維持管理は、法令に基づき適切に行う。 3. 雄湊キャンパス事務室拡張工事や世田谷外壁・防水工事は計画とおりに完了した。 4. 実験室・実習室の管理・責任体制の徹底は継続実施中である。世田谷キャンパス実習室・実験設備の更新・整備はシフトに適合させて計画的に整備していく予定。 5. 五反田体育館視聴覚設備を更新し開放的な空間の活用に向けている。各キャンパスの視聴覚設備のライト化やキャンパス間の遠隔画像・音声配信は、DX事業と継続的な整合のため継続検討する。</p>				

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画	令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
	評価区分			評価区分				
<p>【計画45】(学長戦略本部) 「多様な価値観を尊重し、一步先を歩み続ける医療」を支える「一步先の教育」を実現するため、DXによる基盤強化により「学修者本位の多様な教育の提供」、「学びの質の向上」を図る。</p> <p>【計画達成のための方策】 1. 教育DXの推進 ポストコロナにおいてもDXを大胆に取り入れ、学修成果の可視化や新しい教育手法の開発を加速する。更に、令和3年度に整備したディプロマサブリメント(DS)やルーブリックを更に進化させて、多角的に学修成果や教育成果を把握、可視化を行い教育の質保証を確保する。また、それらの整備を図るため、文科省等の外部資金を積極的に取り込む。</p> <p>◇IT基盤の強化 ・ネットワークの強化(5G対応) ・セキュリティー対策 ・シングルサインオン導入</p> <p>・学生PCの継続貸与 ・学生ポータルによる情報発信整備</p>	IV	<p>1. 教育DXの推進 ・令和3年度文科省補助金「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材養成事業」と「ウイズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」1.7億円を獲得し、ヘルスケア産業のイノベーションの加速とデジタル医療人材育成を実現するための設備・ICTツールの導入(全キャンパス)や教務システム(CampusPlan)やLMS(WebClass)の改良を行い、学修成果の可視化による教育の質保証、教職員の業務改善を進めている。</p> <p>◇IT基盤の強化 ・仮設5G環境を全キャンパスに導入済み。 ・情報セキュリティーに関し学内規定の整備を実施 ・CampusPlanポータル機能を導入済、CampusPlanとWebClassをシングルサインオンできる環境を整備した。全学的運用には学内の調整が必要。 ・貸与継続中 ・CampusPlanに機能追加済み、全学導入を要検討。</p>	IV	<p>【年度計画45】 1. 教育DXの推進 ポストコロナにおいてもDXを大胆に取り入れ、学修成果の可視化や新しい教育手法の開発を加速する。更に、令和3年度に整備したディプロマサブリメント(DS)やルーブリックを更に進化させて、多角的に学修成果や教育成果を把握、可視化を行い教育の質保証を確保する。また、それらの整備を図るため、文科省等の外部資金を積極的に取り込む。</p> <p>◇IT基盤の強化 ・ネットワークの強化(5G対応) ・セキュリティー対策 ・シングルサインオン導入</p> <p>・学生PCの継続貸与 ・学生ポータルによる情報発信整備</p>	IV	<p>1. 教育DXの推進 ・大学ビジョンにDXに積極的に取組む旨を追加した。 ・文部科学省支援事業「大学・高専機能強化支援事業」に7月21日選定された。本事業は基金を創設し「デジタル・グリーン等の成長分野をけん引する高度専門人材の育成に向けて、意欲ある大学・高専が成長分野への学部転換等の改革を行う」という新しい試みである。本学は、令和3年度に採択された文部科学省のPlus-DXや産業DXの活動を発展させて、医療情報学科を令和8年度4月改組し健康デジタル科(仮)として開設する申請を行った。IT・データサイエンスによる課題解決、スポーツテクノロジーの活用を柱に人材育成を行い、本学の教育DXのモデル学部として育てていく。本件では、約9億7千万円の助成金交付(外部資金)を獲得することができた。 ・学修成果の可視化に関しては、学修ポートフォリオの充実に力点をおいている。</p> <p>◇IT基盤の強化 ・五反田キャンパス、立川キャンパスでは、ICTツール活用が加速する中、WiFiの遅延等が散見されたが、ネットワークインフラの拡張を行い、ネットワーク障害が解消した。 ・情報セキュリティーに関しては、令和元年5月24日付元文科高59号の趣旨に基づき、本学における情報セキュリティー水準を適切に維持し、リスクを総合的に低減させることを目的に、新たに「情報セキュリティーポリシー」として「情報セキュリティー対策基本方針」及び「情報セキュリティー対策基本規程」を制定するとともに、併せて情報セキュリティー対策の適正な運営を行うため、「情報セキュリティー委員会規程」を制定し、令和5年4月1日より施行、運用を開始した。 ・シングルサインオンについては、継続検討中。 ・学生PCに関しては、全学生への貸与実施。 ・学生ポータルに関しては和歌山キャンパス大学院、五反田キャンパスでテスト運用を実施した。ポータル稼働に関しては、時間割が変動することに上手く対応できないため、本運用には時間がかかると思われる。</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p>◇教育設備面の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室設備のハイフレックス化(対面・オンライン選択授業) ・授業コンテンツ収録スタジオ整備 ・代替実習環境の充実 ・ICTツールの計画的配備 ・ICT利用支援体制の構築 <p>◇学修成果の可視化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LMS(学修管理システム)と教務システム連携強化 ・ディプロマサプリメント機能拡充 ・ICEルーブリック全学導入 ・学修ポートフォリオの整備 <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育DXの推進状況 <p>2. 研究DXの推進</p> <p>研究活動を支えるICT基盤環境を図り、オープンサイエンス時代を先導する研究を創出する。</p> <p>◇研究データ基盤の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究を支えるICT基盤強化 <p>◇科研費の管理、運用の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科研費獲得に向けICT基盤強化 		<p>◇教育設備面の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業DX補助金による世田谷キャンパス改修において、6教室(A202、A203、A207、A301、A302、A402)に収録用HDカメラと拡声システムを追加し、ZOOM ・次年度以降検討を開始する ・代替実習を含むICTツールに関して、各学部の要望調査を行い、全学共通かつ計画的な調達の視点で次年度アイテムを決定(12月)。 ・ICT利用支援体制は産業DX予算を活用し、業務委託者を世田谷と五反田キャンパスにテスト的に配備、検証中。 <p>◇学修成果の可視化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DX補助金を活用して、学修者の出席状況からリタイヤしそうな学生を検知し、教職員や保証人に周知する仕組みを構築中。来年度より医療情報学科で次年度4月より試行予定。 ・和歌山キャンパス大学院において、ディプロマサプリメント機能を追加。 ・勉強会を2回実施(9月)、約50名の教員が参加 ・LMS(WebClass)のポートフォリオ機能の学修ビューワ勉強会を開催(8月)。また、隣地実習に最適化されたF.CESSを12月に全学デモ、次年度のICTツールとして立川・和歌山看護の導入を決定 <p>II 2. 研究DXの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度は、教育DXの基盤整備に注力した。次年度より研究DXに関して検討開始予定。 <p>◇研究データ基盤の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度は教育DX整備を先行したが、来年度から研究用ICT基盤強化について検討予定 <p>◇科研費の管理、運用の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エクセルによる実績管理から、ICT管理ツール「科研費Pro」を導入し、業務のDX化を進めている。 	<p>◇教育設備面の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室設備のハイフレックス化 ・授業コンテンツ収録スタジオ整備 ・代替実習環境の充実 ・ICTツールの計画的配備 ・ICT利用支援体制の構築 <p>◇学修成果の可視化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LMSと教務システム連携強化 ・ディプロマサプリメント機能拡充 ・ICEルーブリック全学導入 ・学修ポートフォリオの整備 <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育DXの推進状況 <p>2. 研究DXの推進</p> <p>研究活動を支えるICT基盤環境を図り、オープンサイエンス時代を先導する研究を創出する。</p> <p>◇研究データ基盤の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究を支えるICT基盤強化 <p>◇科研費の管理、運用の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科研費獲得に向けICT基盤強化 		<p>◇教育設備面の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度までに導入してきたICT環境(教育DX)の運用支援を行う業務委託体制を構築し、主に五反田、世田谷、立川キャンパスの利用支援を継続して行った。その結果、設備のフル活用や保守運用面に貢献できた。 ・本年度4月にスタートした五反田大学院プライマリーケア看護学領域では、オンデマンドを中心とした講義を展開、多忙な社会人学生の多様な学びに対応することができている。全学の共通科目化を検討するワーキンググループも講義のオンデマンド化による対応を提言しており、今後コンテンツの拡充とともに専用スタジオ環境の整備も検討中する必要がある。 ・代替実習を含むICTツールに関して、各学部の要望調査を行い、全学共通かつ計画的な調達の視点で次年度アイテムを決定(12月)し、導入を行った。 ・教育DXを大学の基本方針と位置付けデジタル技術の更なる活用を図ることを目指している。本年度8月31日～9月1日、DXマネジャーを対象としたシミュレーション事例見学及び意見交換会を京都で開催した。この意見交換会では、教育職員(常勤・非常勤対象)のICTレベルの向上を目的としたICTスキルチェックリストの策定を行い、次年度より本格運用を行う。 <p>◇学修成果の可視化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護演習のポートフォリオ化を実現するため、千葉、東が丘、和歌山LMS(WebClass)の学修カルテ機能の活用を推進した。 ・和歌山キャンパス、立川キャンパスでは、看護演習ポートフォリオシステムを本格導入して、演習状況の可視化、IRデータ収集、学生の形成的評価に効果が出ている。2キャンパスの導入効果を見ながら全学展開を検討中。 <p>III 2. 研究DXの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は急務であった事務作業の効率化に目途が立った。事務部門のDX化による創出された人的リソースを研究活動の支援、外部資金獲得に振り向けていく予定。 <p>◇研究データ基盤の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究を支えるICT基盤強化に関して、具体策を検討中。 <p>◇科研費の管理、運用の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで、手作業で行ってきた科研費の処理に関して、日々の支出処理、各種報告書出力まで管理業務の効率化と研究費の適正管理を目指して、科研費管理システム『科研費プロ』を昨年度導入した。昨年度の試行を経て本年度より本格導入したが、事務作業の低減、科研費の収支状況をタイムリーな可視化、公的機関へのレポート作成の迅速化に貢献している。 				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究DXの推進状況 <p>3. 事務DXの推進 教育研究を支える業務運営全般のDX化も加速させる。事務的処理に投入されてきた職員のリソースを大学価値創出にシフトさせ大学の競争力を高める。</p> <p>◇キャンパスプラン拡張と業務一元化 ・学生募集から卒業まで一元管理</p> <p>◇問合せ業務の効率化 ・AIとチャットボット(自動会話プログラム)の活用</p> <p>◇事務カウンター業務の効率化 ・証明書コンビニ発行</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子マネー決済導入 業務の標準化と統合及びバックオフィス強化(共通業務) 	IV	<p>3. 事務DXの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習基盤推進室が中心となって、教育DX・事務DXに関する調査及び導入を行っている。ツール導入だけでなく、運用の視点で、分散した事務職員のリソースを、外注化や集中化によって効率的にできないか模索中。 <p>◇キャンパスプラン拡張と業務一元化 ・人事情報システムを追加、任用から辞令までの人事管理を電子化した。 ・経理部門へのCampusPlan導入の可否を調査した。 ・半期に一度、成績表を印刷して郵送を行っているが、今年度CampusPlanアンシンサイトを導入し、保証人がWebで閲覧する環境を整備中、来年度から運用開始目指す。</p> <p>◇問合せ業務の効率化 ・SIベンダーもチャットボットシステムを紹介いただくなど、調査中。</p> <p>◇事務カウンター業務の効率化 ・証明書のコンビニ(学外)発行システム構築中、次年度5月以降にカットオーバーを予定。 ・次年度より検討を開始する。 ・補助金の一部を活用し、新設の大学院プライマリケア看護領域のCampusPlan設定作業やデータ入力業務を外注化、バーチャルバックオフィスの実証実験中。</p>	<p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究DXの推進状況 <p>3. 事務DXの推進 教育研究を支える業務運営全般のDX化も加速させる。事務的処理に投入されてきた職員のリソースを大学価値創出にシフトさせ大学の競争力を高める。</p> <p>◇キャンパスプラン拡張と業務一元化 ・学生募集から卒業まで一元管理</p> <p>◇問合せ業務の効率化 ・AIとチャットボットの活用</p> <p>◇事務カウンター業務の効率化 ・証明書コンビニ発行</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子マネー決済導入 業務の標準化と統合及びバックオフィス強化(共通業務) 	IV	<p>3. 事務DXの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務DXを全学的に推進するため、全学横断組織である「事務DX推進プロジェクトチーム」を設置(7月1日)した。メンバーには次世代を担う若手・中堅職員が参加し、学生サービスの充実、サービス向上。業務の効率化に向けた議論を活性化させている。 <p>◇キャンパスプラン拡張と業務一元化 ・本学の課題である事務部の分散による業務の非効率化を解消するため、教務システム(Campusplan)のバックオフィス業務(データ入力、カリキュラム設定など)を、納入ベンダーであるシステムディ社にリモートで委託する新サービスの実験を行った。課題はあるものの、各事務部で共通する事務作業を仮想バックオフィスで集中的に行う可能性が見えて来た。今後人事部と具体化に向けた協議を行っていく。</p> <p>◇問合せ業務の効率化 ・チャットボットは、問い合わせ業務の効率化として期待されるが、データベース構築に手間暇・コストがかかるため当面現実的ではない。</p> <p>◇事務カウンター業務の効率化 ・証明書に関しては、「学外(コンビニ)証明書発行システム」が学内サーバークラウド化の影響で導入が遅れたが、準備が整い、来年度4月1日より運用スタートする。これによる年間7000件の証明書発行業務の自動化が実現する。 ・学外証明書発行システム導入に伴いWebによる決済代行システムも併せて導入する、カウンターで現金決済を行ってきた追試や療費の決裁などキャッシュレス化の道筋が見えてきた。次年度以降、電子マネーも導入も合わせて検討する。 ・事務部の分散による業務の非効率化を解消するため、教務システム(Campusplan)のバックオフィス業務(データ入力、カリキュラム設定など)を、納入ベンダーであるシステムディ社にリモートで委託する新サービスの実験を行った。課題はあるものの、各事務部で共通する事務作業を仮想バックオフィスで集中的に行う可能性が見えて来た。今後人事部と具体化に向けた協議を行っていく。</p>			

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p>◇業務のオンライン化 ・各種決済</p> <p>・勤怠管理 ・雇用委託契約 ・会議、コラボレーション</p> <p>◇ペーパーレス化 ・事務局ペーパーレス化 ・保管資料のペーパーレス化 ・ペーパーレス会議の検討</p> <p>◇データによる教学IR、経営IRの推進 ・データ資産の集約基盤整備</p> <p>◇データによる教学IR、経営IRの推進 ・データ資産の集約基盤整備</p> <p>【評価指標】 ・事務DXの推進状況</p> <p>【計画46】（研究協力部） 教育研究活動に必要な教員の研修の機会を確保するため、学会・研究会に参加する等、就業規則に基づき適切な配慮を行う。また、外部資金への積極的な申請を奨励し獲得を図る。</p> <p>【計画達成のための方策】 教育受託研究費・奨学寄附金等の外部資金への積極的な獲得を奨励する。また科学研究費等補助金については外部講師を招いて定期的に説明会を開催し申請・獲得を図る。</p> <p>【評価指標】 ・受託研究費・奨学寄附金等外部資金の獲得状況、科学研究費等補助金の説明会等の開催状況（開催回数、参加者数、参加率）</p>		<p>◇業務のオンライン化 ・証明書コンビニ（学外）発行システムの決済機能を活用して、追試験などの金銭の授受を伴う申込などをコンビニ決済に移行する。次年度5月以降に対応予定。 ・次年度対応予定 ・次年度対応予定 ・補助金等を活用して、4キャンパスにオンライン会議（ZOOM）可能な電子黒板を導入。特に、学部長等会議やCOVID-19対策本部会議など、本部での会議をハイブリッドで先行実施。</p> <p>◇ペーパーレス化 ・SIベンダーに事務のペーパーレス化を相談中。 ・SIベンダーに事務のペーパーレス化を相談中。 ・全学的なペーパーレス化を実現するため、従来印刷物を配布していた学部長等会議をペーパーレスにて試行し、課題抽出する。</p> <p>◇データによる教学IR、経営IRの推進 ・学内のビッグデータ解析ツールとして、データサイエンティストが不要なAI分析サービス（dotData Lite）をSIベンダーにヒアリング。</p> <p>◇データによる教学IR、経営IRの推進 ・学内のビッグデータ解析ツールとして、データサイエンティストが不要なAI分析サービス（dotData Lite）をSIベンダーにヒアリング。</p> <p>IV</p> <p>・科学研究費等補助金の積極的な申請を奨励するため、毎年度外部講師を招いて説明会を開催しており、今年度は独立行政法人日本学術振興会 研究事業部研究助成第二課 課長代理の荒田 孔明氏を招聘し令和4年8月8日（月）16:30から90分間オンライン開催で実施した。 参加者数は教職員等166名、参加率は教員58.3%と参加者数及び教員参加率とも過去最高となった。 ・科研費等外部資金の獲得状況は次表の「研究費総額に占める学外からの研究費の割合」及び「科学研究費助成事業新規申請件数及び採択件数」の通りである。 ・令和3年度については、学外からの研究費が、前年度比66,179千円増（180%）となった。特に総合研究所が積極的に行った共同研究や厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚労科研）の受け入れ額の増が外部研究費増となった主な要因である。 また、科学研究費助成事業（科研費）新規申請件数及び採択件数はコロナ禍が続く中で申請件数及び採択件数とも前年度を上回った。</p>	<p>◇業務のオンライン化 ・各種決済 ・勤怠管理 ・雇用委託契約 ・会議、コラボレーション</p> <p>◇ペーパーレス化 ・事務局ペーパーレス化 ・保管資料のペーパーレス化 ・ペーパーレス会議の検討</p> <p>◇データによる教学IR、経営IRの推進 ・データ資産の集約基盤整備</p> <p>◇データによる教学IR、経営IRの推進 ・データ資産の集約基盤整備</p> <p>【評価指標】 ・事務DXの推進状況</p> <p>【年度計画46】 教育受託研究費・奨学寄附金等の外部資金への積極的な獲得を奨励する。また科学研究費等補助金については外部講師を招いて定期的に説明会を開催し申請・獲得を図る。</p> <p>【評価指標】 ・受託研究費・奨学寄附金等外部資金の獲得状況、科学研究費等補助金の説明会等の開催状況（開催回数、参加者数、参加率）</p>		<p>◇業務のオンライン化 ・学外証明書発行システム導入に伴いWebによる決済代行システムも併せて導入する、カウンターで現金決済を行ってきた追試や寮費の決裁などキャッシュレス化の道筋が見えてきた。次年度以降、電子マネーの導入も含め、具体的な移行について検討を行う。</p> <p>・勤怠管理システムは人事部手動で今年度導入を検討、次年度より導入を開始する予定。 ・ZOOMや電子黒板の積極的な導入により、出張費や時間の削減に寄与している。また、会議そのものの時間短縮という副産物も生まれている。</p> <p>◇ペーパーレス化 ・大学経営会議など、外部メンバーへの従来通り印刷物を配布しているが、今年度より学内関係者はPDFを事前配布する運用に変更を行った。紙資源の削減と事務作業軽減に寄与している。学内の主要会議のレスペーパー化は、その他の会議のレスペーパーにも波及しつつある。</p> <p>◇データによる教学IR、経営IRの推進 ・大きな進捗がないが、学生募集や経営判断においてビッグデータの活用が必須であり、次年度の優先課題としたい。</p> <p>III</p> <p>・科学研究費等補助金の積極的な申請を奨励するため、毎年度外部講師を招いて説明会を開催しており、今年度は奈良県立医科大学 公衆衛生学講座 教授の今村 知明先生を招聘し令和5年8月17日（木）16:30から90分間オンライン開催で実施した。 ・参加者数は教職員等174名、参加率は教員64.6%と参加者数及び教員参加率とも昨年の過去最高を更新した。 ・科研費等外部資金の獲得状況は次表の「研究費総額に占める学外からの研究費の割合」及び「科学研究費助成事業新規申請件数及び採択件数」の通りである。 ・令和4年度については、学外からの研究費が、前年度比80,986千円減（46%）となった。要因として考えられることは、コロナ禍への対応のため準備作業等で研究に費やす時間減少が大きい。また、科学研究費助成事業（科研費）新規申請件数は依然とコロナ禍が続く中で前年度を上回り、採択件数は前年度と同数となった。 なお、令和6年度採択件数は令和6年3月末現在（最終的には令和6年9月決定）13件となっており、昨年度に比べて大幅に改善される見込みである。</p>				<p>今年度は未確定であるが、採択件数が改善される見込みであるのでその旨記載することが望ましい。</p>

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p>【計画47】(図書館) ポストコロナに向け、図書館機能の整備・充実を図るとともに、図書館利用者のサービスの向上を図る。</p> <p>【計画達成のための方策】 1. 教育研究遂行上必要な図書・学術雑誌・視聴覚資料・電子媒体等の整備・充実を図る。</p> <p>【評価指標】 ・ 図書・学術雑誌・視聴覚資料・電子媒体等の整備状況</p> <p>2. 図書館管理システムにより、利用サービスの維持・向上を図る。</p> <p>【評価指標】 ・ 図書館管理システムによる利用サービスの改善状況</p> <p>3. 新入生に対する図書館利用に関するオリエンテーションを実施するとともに、利用者のニーズに対応した図書館ガイダンスを適切に実施する。</p> <p>【評価指標】 ・ 図書館ガイダンスの実施状況</p> <p>4. 図書館利用に関する学生及び教職員からの相談を適切に行うとともに、文献複写サービスの提供に努める。また、ラーニング・ commonsの整備に努める。</p> <p>【評価指標】 ・ 利用者からの相談状況、文献複写サービスの活用状況、ラーニング・ commonsの整備状況</p> <p>5. 図書館の書架を体系的・目的別に整備し、書架の案内掲示を見易くする等利用サービスに努める。</p> <p>【評価指標】 ・ 利用サービスの改善状況</p> <p>6. 地域に開かれた大学として地域開放に努めるとともに、図書館利用の拡充に努める。</p> <p>【評価指標】 ・ 地域住民等による利活用状況</p>	IV	1. 例年と概ね同程度の数の図書・学術雑誌・視聴覚資料・電子媒体等の受入を実施した。	IV	1. 教育研究遂行上必要な図書・学術雑誌・視聴覚資料・電子媒体等の整備・充実を図る。 <p>【評価指標】 ・ 図書・学術雑誌・視聴覚資料・電子媒体等の整備状況</p>	IV	1. 例年と概ね同程度の数の図書・視聴覚資料・電子書籍の受入を実施した。学術雑誌は休刊と電子版移行により購読数が減少し、その分電子雑誌の購読数が増加した。		
	IV	2. 図書館システムを通して受入資料の目録を公開し、所在情報やアクセス情報を提供した。	IV	2. 図書館管理システムにより、利用サービスの維持・向上を図る。 <p>【評価指標】 ・ 図書館管理システムによる利用サービスの改善状況</p>	IV	2. 図書館システムを通して受入資料の目録を公開し、所在情報やアクセス情報を提供した。		
	IV	3. 全学部・専攻科・研究科の新入生に対してそれぞれ図書館ガイダンスを実施したほか、学部生・大学院生に対して文献検索・データベースガイダンスを実施した。	IV	3. 新入生に対する図書館利用に関するオリエンテーションを実施するとともに、利用者のニーズに対応した図書館ガイダンスを適切に実施する。 <p>【評価指標】 ・ 図書館ガイダンスの実施状況</p>	IV	3. 全学部・専攻科・研究科の新入生に対してそれぞれ対面での図書館ガイダンスを実施したほか、学部生・大学院生に対して文献検索・データベースガイダンスを実施した。文献検索・データベースガイダンスは希望に応じて録画映像の配布も実施している。		
	II	4. 例年と同程度学生及び教職員からの相談に対して回答を行い、文献複写サービスを実施した。 ・ ラーニング・ commonsの整備について進捗はない。	II	4. 図書館利用に関する学生及び教職員からの相談を適切に行うとともに、文献複写サービスの活用状況、ラーニング・ commonsの整備状況 <p>【評価指標】 ・ 利用者からの相談状況、文献複写サービスの活用状況、ラーニング・ commonsの整備状況</p>	II	4. 例年と同程度学生及び教職員からの相談に対して回答を行い、文献複写サービスを実施した。 ・ ラーニング・ commonsの整備について進捗はない。		
	IV	5. 各館において書架の整備、案内掲示を行っている。	IV	5. 図書館の書架を体系的・目的別に整備し、書架の案内掲示を見易くする等利用サービスに努める。 <p>【評価指標】 ・ 利用サービスの改善状況</p>	IV	5. 各館において書架の整備、案内掲示を行っている。		
	II	6. 附属世田谷図書館で地域利用者への図書館利用を展開しているが利用申込はなかった。附属東が丘図書館において目黒区地域内図書館の共同企画展示を実施し、地域連携会議を行った。	II	6. 地域に開かれた大学として地域開放に努めるとともに、図書館利用の拡充に努める。 <p>【評価指標】 ・ 地域住民等による利活用状況</p>	II	6. 附属世田谷図書館で地域利用者への図書館利用を展開しているが利用申込はなかった。附属東が丘図書館が参加する目黒区の医療系図書館地域連携の名称を「めぐりぶ健康ネット：めぐる図書館健康情報連携」と決定し、共同企画展示「病気と仕事の両立」を開催した。		

科学研究費助成事業の採択状況の推移

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
申請件数	33	35	41	55	47	30	41	43
採択件数	8	7	10	22	13	7	8	8
採択率	24.2%	20.0%	24.4%	40.0%	27.7%	23.3%	19.51%	18.60%

研究費総額に占める学外からの研究費の割合

(単位：千円)

	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	金額	割合	金額	割合	金額	割合
研究費総額	208,875	100.0%	292,383	100.0%	216,480	100.0%
学内経常研究費	124,903	59.8%	142,232	48.6%	147,315	68.1%
学外からの研究費	83,972	40.2%	150,151	51.4%	69,165	31.9%
政府もしくは政府 関連法人からの 研究助成金	10,286	—	37,654	—	18,603	—
科学研究費補助金	60,190	—	62,641	—	36,692	—
民間研究助成金	1,500	—	11,000	—	2,924	—
奨学寄附金	0	—	0	—	0	—
受託研究費	5,028	—	3,186	—	7,476	—
共同研究費	6,968	—	35,670	—	3,470	—